



**2022年3月期 第3四半期  
決算補足説明資料**

**2022年1月31日（月）**

**ウェーブブロックホールディングス株式会社  
証券コード：7940  
（東証一部）**

## ■ 売上高 15,480百万円

- 前年同期比△28.8%。前年同期実績からインテリア事業を連結対象外とした売上高（参考値）15,042百万円に対して+2.9%
- **通期業績予想に対する進捗は75.9%と順調**
- アドバンステクノロジー事業における自動車向け販売が好調に推移

## ■ 営業利益 572百万円

- 前年同期比△53.9%。前年同期実績からインテリア事業を連結対象外とした営業利益（参考値）598百万円に対して△4.3%
- **通期業績予想に対する進捗は76.3%と順調**
- 原材料価格の高騰は、特にマテリアルソリューション事業の利益を圧迫。売価転嫁により対応するも、原材料価格の更なる上昇により苦戦
- 高付加価値製品を扱う**アドバンステクノロジー事業**は、自動車向け販売が好調に推移したことにより**前年同期比331.1%増**

(単位：百万円)

|                                | 2021年3月期<br>第3四半期累計<br>(実績) | 2022年3月期<br>第3四半期累計<br>(実績) | 前年同期比<br>増減率 | 2022年3月期<br>通期<br>(予想) | 進捗率   |
|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------|------------------------|-------|
| 売上高                            | 21,728                      | 15,480                      | △28.8%       | 20,400                 | 75.9% |
| 営業利益                           | 1,241                       | 572                         | △53.9%       | 750                    | 76.3% |
| 経常利益                           | 1,197                       | 792                         | △33.8%       | 1,070                  | 74.0% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益            | 790                         | 597                         | △24.5%       | 770                    | 77.6% |
| 1株あたり<br>当期純利益(円) <sup>1</sup> | 81.21                       | 61.75                       | -            | 82.00                  | -     |

1. 発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2021年3月期第3四半期は9,737,654株、2022年3月期第3四半期は、9,673,749株です。

# セグメント別情報

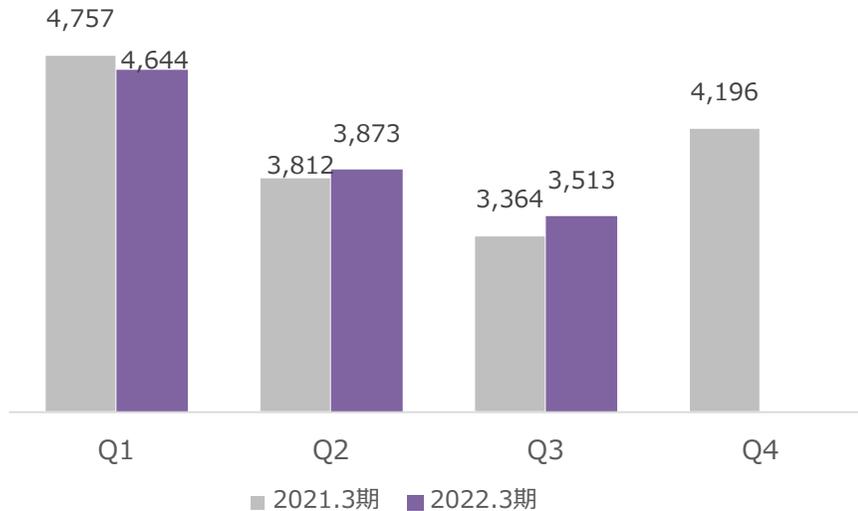
(単位：百万円)

|              | 2021年3月期<br>第3四半期<br>(参考値)* | 2022年3月期<br>第3四半期<br>(実績) | 前年同期比<br>増減額 | 前年同期比<br>増減率 |
|--------------|-----------------------------|---------------------------|--------------|--------------|
| 売上高          | 15,042                      | 15,480                    | +438         | +2.9%        |
| マテリアルソリューション | 11,934                      | 12,031                    | +96          | +0.8%        |
| アドバンステクノロジー  | 3,171                       | 3,470                     | +299         | +9.4%        |
| その他          | △ 64                        | △ 21                      | -            | -            |
| 営業利益         | 598                         | 572                       | △ 25         | △4.3%        |
| マテリアルソリューション | 961                         | 750                       | △ 210        | △21.9%       |
| アドバンステクノロジー  | 71                          | 306                       | +235         | +331.1%      |
| その他          | △ 434                       | △ 484                     | -            | -            |

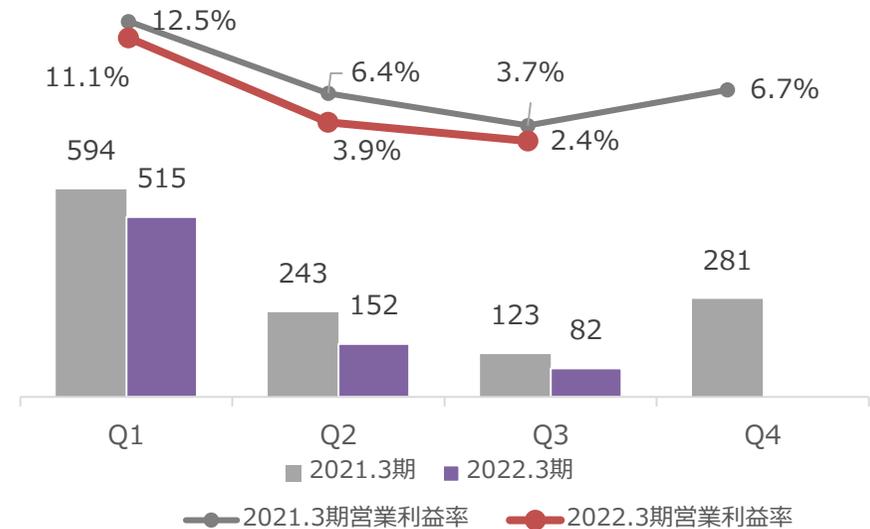
※2021年3月期第3四半期（参考値）の連結売上高および連結営業利益は、2021年3月に（株）サンゲツへ譲渡したインテリア事業を連結から除外した参考値

単位：百万円

売上高



営業利益・営業利益率



## リビングソリューション：

- ホームセンター向け販売は前期好調の反動減により売上高、利益ともに前年同期比大幅減。3月末のシーズンに向けて顧客と連携し製品改良等を実施。シーズンは想定どおりの動き出しを見込む

## ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション：

- 建設・仮設工事関連向けは需要が回復傾向にあり堅調。また上期におけるオリンピック関連向けやワクチン接種会場向けフロアシート特需により売上高は前年同期比プラスも、原材料価格上昇に苦戦し利益では減少。追加の売価転嫁等により利益率改善を図る

## パッケージングソリューション：

- 食品容器やヨーグルト容器向け販売の好調等により売上高は前年同期比プラスも、原材料価格上昇により粗利率が低下し利益では前年同期比減。追加の売価転嫁や販売数量拡大による操業度アップ等で利益率改善に努める

## アグリソリューション：

- 農業への投資意欲が復調しつつあり土壌改良剤等の資材販売が引き続き堅調。林業向け資材なども好調に推移し、売上高は前年同期比プラス。セールスマックスや原材料価格上昇により利益は前年同期比微減

- スジャータめいらくグループで2021年10月18日に発売された業務用ミルクポーションに当社製品が採用
- ポーション型コーヒーフレッシュでは業界初となる植物由来のバイオマスプラスチックを配合
- 今後、同社の他製品にも展開が見込まれる



## 【商品名】

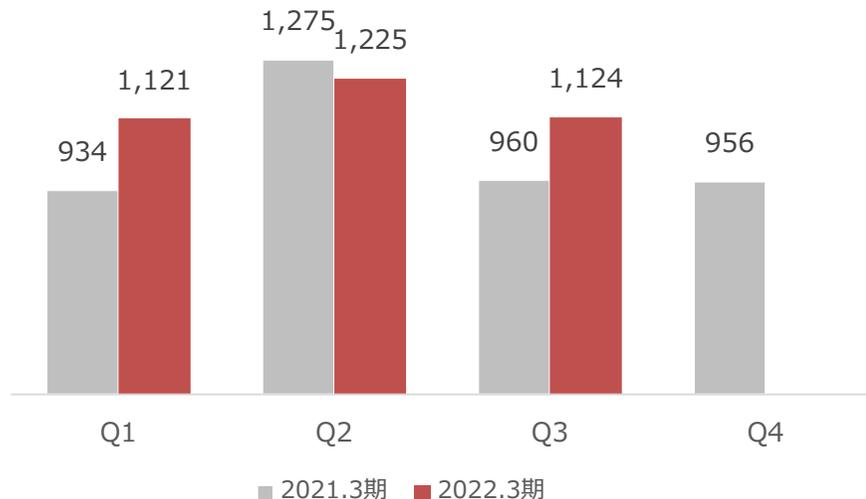
ECO SUJAHTA4.5

## 商品特徴

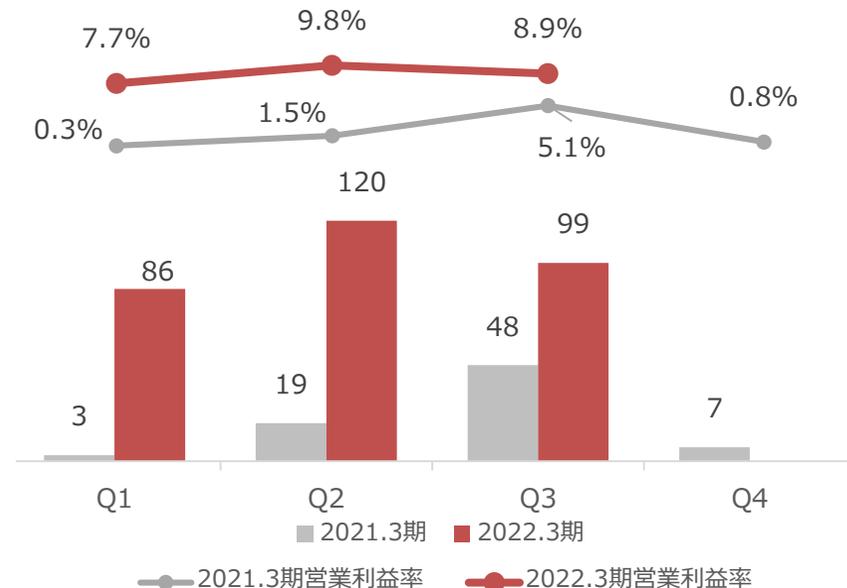
- ・ 香料不使用で豊かなミルクの風味を味わえます。コーヒーを引き立て、より美味しくします。
- ・ ポーション容器の一部にバイオマスプラを配合しています。
- ・ 持続可能な原料としてRSPO認証油を使用しています。
- ・ 鮮度維持のため、茶色容器を使用しています。
- ・ 酸化防止剤不使用です。

単位：百万円

売上高



営業利益・営業利益率



## デコレーション&ディスプレイ（金属調加飾フィルムおよびPMMA/PC2層シートから名称変更）：

- 金属調加飾フィルムにおいては、国内自動車メーカーの小型SUV向けドアハンドル販売が引き続き好調。北米自動車メーカー向けも新規採用車種の好調や採用車種拡大により続伸。加えてインド・東南アジアにおける2輪車向け販売も好調に推移し、半導体不足に伴う減産や中国における自動車向け販売の低調をカバーし、売上高・利益ともに前年同期比大幅増加。販売数量増加に伴い生産効率も向上
- 自動車用内装ディスプレイ用途においては、新規案件の立ち上げや既存案件の横展開により引き続き好調。製造工程の見直し等により生産効率も改善。赤字を脱出し利益に貢献
- 今後は半導体不足等の影響が懸念されるものの、通期予算達成を見込む

## その他：

- ディスプレイ用拡散板は前年同期の特需が落ち着き、売上高・利益ともに前年同期比減となるも、引き続き安定した数量を受注

- 北米新興EVメーカー「リビアン」のピックアップトラック「R1T」のスキッドプレートに採用され、2021年9月より量産開始
- 同社は環境に配慮された部品の搭載を目指しており、製造過程で環境負荷が高いメッキ加工品の代替として金属調加飾フィルムを採用
- 今後、同社のSUV「R1S」への供給も決定



フロントスキッドプレート



リアスキッドプレート

# 今後の見通し

- 2021年7月30日に上方修正した**通期業績予想を維持**
- 原油価格上昇に伴う原材料価格の高騰や、半導体不足等による自動車の減産による影響が懸念

(単位：百万円)

|                     | 2022年3月期<br>通期（予想） |
|---------------------|--------------------|
| 売上高                 | 20,400             |
| 営業利益                | 750                |
| 経常利益                | 1,070              |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 770                |

本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。  
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。